

苦小牧市医師会

医師

小林 成一

# 糖尿病について

今日、文明国では、糖尿病の頻度がきわめて高くなつてきていることが、注目されています。

日本では、総人口一億三千万人のうち糖尿病患者は、五百万人ということが言われています。また、一九四〇年代（第二次世界大戦（終戦後数年））は、いまほど多くはありませんでした。食糧事情が変化するにつれ、糖尿病が増加してきたわけで

## 定期的な検査が大切

す。  
この糖尿病の症状は、比較的目立たないものの、合併症は糖尿病患者の生活の質を著しく障害します。

その特徴として、わが国の失明の原因疾患の第一位となっていること、毎年、腎（じん）不全のため人工透析をしなければならなくなる人たちの原因疾患の第二位となっていること（年

間四千人の新たな透析導入患者がいること）、動脈硬化性疾患の促進因子となっていること、などがあげることが出来ます。

以上のような特徴、すなわちその頻度がきわめて高く、かつ合併症のないかぎり、あまり症状が、はっきりしないことは、潜在性の糖尿病患者が、かなりいるということが言えます。糖尿病は、内科的治療にきわ

めて良く反応する疾患であると言えます。特に、早期発見で早期治療により、本人が自覚症状を訴えないまま、治癒状態となり、定期的なチェックにより、治療を中断することがなければ、重症な合併症を起すことが少ないと言えます。

換言すれば、まだ症状が出るまえに、早期発見を行って、適切な日常生活を行えば、生涯に

わたって無症状であり、治った状態を続けることが、可能な病気といえます。

では、読者の方は、どうすればよいのでしょうか。まず自分の近親者に糖尿病の方がおられるかどうか、また、肥満傾向はないかどうか、最近、のどが渇くようになったかどうか、最近どうも夜トイレに起きるようになったかどうか、などをチェックし、糖尿病という病気への関心をもち、定期的な検査（尿糖、血糖値など）を受けることが、非常に大切です。

